



2017年1-3月(No. 31)
社会福祉法人白根学園
障害者支援施設 しらねの里
編集 広報担当
〒241-0001
横浜市旭区上白根町1092番地
TEL 045-954-5210
FAX 045-954-2337
E-mail shirane-sato@shirane.or.jp

『新年度を迎えるにあたり』

しらねの里、しらねの里・げんき、ホーム里 施設長 川北 敏晴

春とはいっても朝夕はまだまだ冷え込みが続いておりますが、皆様如何お過ごしでしょうか。しらねの里、しらねの里・げんき、ホーム里は、職員の異動・新人職員の配置等々、新年度に向けた仕事が増え、平成29年度に向け職員全員が走り回っている様子は、毎年度末の恒例行事です。日常の支援の中にも変化が出てきました。

しらねの里、しらねの里・げんき、ホーム里の皆さんとご家族、地域の皆様楽しくご利用して頂くために色々と工夫をしています。しらねの里の中にあるカフェ・ヴィラージュにはレコードプレイヤーが置かれ、皆さんが自由にレコードを聴くことができるようになりました。しかし、レコードを聴いたことがない若い職員が多く、50～60代の職員が居ないと針を落とすことができません。レコード独特の優しい音を聴き是非ご来店下さい(レコードの持ち込みもOKですよ)。この他、食堂を改装し、平成2年から利用していた「食堂」が「ビストロ シュシュ」という名前になりました。フランス語で、ビストロは“気軽に入れる小さな大衆レストラン”というような意味で、シュシュは“可愛い”という意味だそうです。食堂の一部にボックス席を用意し、ファミレスのような雰囲気を作りました。カウンターテーブルも用意しています。また、ティーサーバーには紅茶とお茶が用意されており、ボックス席は常時開放していますのでご自由にお立ち寄り下さい。

この他、事務所と支援員室の間にあった書棚を取り外しました。玄関に入ると事務室が大きくなったように見えると思います。事務と支援の連携をもっと密にできるようにしていきます。

今回も映画の話の一つさせて下さい。春になると観たくなる映画です。2006年に上映された「博士の愛した数式」という映画です。交通事故の後遺症で、80分で記憶を無くしてしまう主人公が毎日のように本人にとっては新しいこと(他の人には毎日同じこと)に感動している姿、それを支える人たち、一番身近にいる家政婦さんと歩く桜並木の綺麗さが印象的な映画です。支えるということを仕事にしている私にとって、利用者の皆さんにどれくらい寄添う支援ができていたのかを考えさせてくれた作品です。機会があれば一度ご覧になって下さい。

今年度は、ハード(建物内)を中心に見える範囲で改装しました。新年度はソフト(支援内容)に重点を置き、皆さんに安心して頂けるような施設運営をしていこうと思っておりますので、来年度も宜しくお願い致します。

正職員・嘱託(パート)職員・ボランティアさん募集中!

正規の支援員・嘱託の支援員補助・宿直職員・調理員など性別・資格を問わず、各部署で募集中です。まずは見学して自分に合う仕事があれば是非トライして下さい。

外出～新体験・新感覚～

今年度の里の外出は昨年度とは異なり、利用者さんの「行った事の無い場所・経験した事の無い事」をテーマに外出の幅を広げました。夏は7月・8月・9月と外出期間を伸ばし、1回の外出を少人数で行いプールにお泳ぎに行き、涼しく屋内で楽しめる体験型のレジャー施設へ、買い物にはトレッサやイオンモールへ出掛け涼しく夏を感じられるような外出をしました。

冬は、11月に予定されていた里恒例行事の日帰り旅行・12月に行われた新しくなった感謝祭(旧バザー)の参加が中止となってしまい出掛ける事が出来なくなってしまった時期もありましたが、毎年冬に行っていたクリスマス外出から冬外出へ名称を変え、2月に八景島シーパラダイス・3月には新江の島水族館へ出掛け海や魚と触れ合い、ショッピングは例年行っていたらぽーとへの外出を止め、ノースポートモールへ出掛け、今まで行った事の無い新しい場所での体験や食事をゆっくりと楽しまれていました。



新年会



ひな祭り



～東日本大震災あの日を忘れない～

平成29年3月11日で東日本大震災から6年が過ぎました。

しらねの里・げんきでは、2月20日、旭消防署都岡出張所長をお招きし、「避難訓練」、「スモーク体験」、「消火訓練」の3つの訓練を実施しました。

「避難訓練」では、げんき1階の身障者トイレから出火したという前提で、利用者の皆さんが、日頃使用しない2階の非常階段から避難場所の駐車場まで、職員の誘導のもと、真剣な表情で避難しました。「スモーク体験」は、視界の悪い中を低い姿勢で移動する体験です。利用者の皆さんの中には、自発的にハンカチを口に当てて、這うように移動している利用者さんもいました。「消火訓練」は消防・出張所長の指導のもと、職員が「火事だ～！」の大声的に向けて消化器を勢いよく放水しました。

どの訓練も、利用者さん、職員とも真剣なまなざしで参加され、災害時の身を守る大切さ、いざという時の大きな声の大切さを学びました。

げんき：秋山



社会福祉法人 白根学園の沿革

昭和35(1960)年5月12日、白根学園児童寮は旭区白根7丁目の地に誕生しました。

創立者 三木信之・芳夫妻には、ダウン症の息子さんがいました。当時、障がいゆえに義務教育を受けられないわが子のために、学校教育に代わる場、安心して生活ができる場として、5人の知的障がいのある子ども達と共に白根学園をスタートしました。

以来、54年が経過し、13ヶ所の事業所で848人の障がいのある人達に何らかのサービスを提供できるようになりました。常勤職員291人、嘱託職員等300人は、創立者が掲げ法人の基本理念として残る次の言葉を胸に、自分に課せられた役割を果たしています。

『知識より 信仰より 愛を以て第一となす』

創立者 三木 信之

